

## 【審査委員会特別賞】

団体名	北海道雨竜高等養護学校ウッドスタート協議会
活動の内容（概要）	<p>雨竜町と北海道雨竜高等養護学校は、平成25年度から「雨竜町ウッドスタート事業」を開始した。この事業は、生徒が製作した積み木を、幼児や保育所に贈呈する事業で、積み木については東京おもちゃ美術館と協定を結び、監修を受けている。</p> <p>1学期終業式に第1回贈呈式を行い、町長、東京おもちゃ美術館副館長、木工科生徒から親子に贈呈した。これまでに18名の幼児に贈呈している。</p> <p>保育所への贈呈は昨年からの実施し、今年は滝川市の保育所へ、生徒自ら説明し贈呈した。</p> <p>生徒は、直接手渡すことで実感を深め、自分たちが製作した積み木が、実際に使われ役立っていることを知ることで、自己有用感を高め、意欲の向上につながっている。</p>

### 受賞理由

- ・生徒が作成した積み木を、保護者及び幼児等に直接手渡しすることにより、仕事のプロセス（発注から提供まで）、責任及び喜びなどを非常に分かりやすく実感として捉えることができる取組である。
- ・自己有用感をもたせる取組を、学校が社会各者（行政、NPO、企業）と協力して効果的に行うことができ、上手にデザインされた好事例である。
- ・各協力主体にとって、協力のメリットが感じられるような工夫があり、継続性が高い。
- ・教育課程（教育計画）に位置付けて取り組み、次年度に向けて、学校と町が事業内容の反省（評価）を行い、次年度の予算を含めた計画を立てている。
- ・今後、地域の多くの人々と継続的に関わり、日本のモデルになる教育を進めていただきつつ、特別支援教育が進めるインクルーシブ教育の目指すところである、共生社会の形成に有効な役割を果たすことについても期待している。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

雨竜町教育委員会、雨竜町保育園

【行政】

雨竜町（役場）、北海道水産林務部森林環境局森林活用課木育推進グループ

【地域・社会】

東京おもちゃ美術館（NPO法人日本グッド・トイ委員会）

【産業界】

株式会社池上木工（雨竜町）

## 活動開始の経緯

・平成24年10月 雨竜町保育園で積み木を試用してもらい、評価を受けるモニターを開始する。

・平成25年4月 雨竜町ウッドスタート事業を開始（協定書の調印）。

・平成25年7月 東京おもちゃ美術館と「ウッドスタート協定」に調印。第1回贈呈式を開催。

町内の幼児と近隣保育所等への積み木の贈呈（幼児への贈呈は、1歳6か月健診時）を推進しており、この事業は、平成25年以降も毎年実施する。



雨竜町ウッドスタート事業調印式  
（平成25年4月15日）



協定書の調印と町長から生徒へ、  
積み木の発注書が手渡された。



雨竜町ウッドスタート事業  
第1回贈呈式  
（平成25年7月24日）



8組の親子が出席し、町長や副館長、生徒  
から贈呈後、全員で記念撮影。

## 活動実績

- ・町内幼児へ積み木の贈呈（11月現在18名）
- ・保育所等へ大型積み木の贈呈（11月現在3か所）
- ・高橋北海道知事へ事業の報告と積み木の贈呈
- ・立川北海道教育長へ事業の報告と積み木の贈呈
- ・東京おもちゃ美術館への展示

## 「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

協働する上での各役割について

- ・雨竜町：予算、対象児の把握と案内、町広報への掲載等。
- ・東京おもちゃ美術館：製品の監修、ウッドスタート推進の助言、情報提供等。
- ・教育委員会：学校と役場の連携・調整等
- ・株式会社池上木工：材料の調達（道産材）
- ・保育園：製品（積み木）のモニター、製品開発への協力等。
- ・北海道水産林務部森林環境局森林活用課木育推進グループ：情報発信

## 「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

- ・事業は、協定を結んだことで確実に実施される。また町民にも周知されている。具体的には、役場保健グループが行う年3回の1歳6か月健診時に贈呈されるようにしている。

- 教育課程（教育計画）に位置付け、製作は2・3年生を中心に1学期に、1年生は3学期に入り部分的に取り組む計画を立てている。
- 次年度に向け、学校と町が事業内容の反省（評価）を行い、次年度の予算を含めた計画を決める。

#### 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 生徒の実体験を重視し、社会の中で自分の役割を果たすことで、キャリア発達を促す取組を行った。
- 保育所で積み木を使って園児と一緒に遊ぶ経験や贈呈して感謝される経験。
  - 幼児に直接手渡すこと（自分の言葉で一言）の経験。保護者から感謝される経験。
  - 贈呈した保護者や保育所から評価（アンケートや写真）を受ける経験。
  - 町長、東京おもちゃ美術館館長、北海道教育長、北海道知事に説明する経験と感謝・激励を受ける経験。
  - 学校のホームページの記事を制作する経験。（製作や贈呈式、知事表敬での気持ちを表現する）

#### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

- この事業は始まったばかりではあるが、町と協定を結び、町民にも周知されており、末永い事業となる。また、各方面に報道されることにより、広く周知され、協力・支援が拡大している。
- 道庁空知振興局森林室から次年度、外部講師を担当したいとの依頼が入る。キャリア教育の授業として取り入れていく予定。
  - 新製品の開発に当たっては、保育園の協力を得て共同開発し、東京おもちゃ美術館の監修を受けて推進する。
  - 本校は6学科あるが、この取組が他の学科にも刺激を与え、作業学習や進路指導においても、キャリア教育の視点による工夫が生み出されてきている。
  - キャリア教育として取り組んだ実践であるが、養護学校の生徒が製作した積み木が町内や近隣地域に広がることで、障害者理解の推進にも役立っている。特別支援教育が進めるインクルーシブ教育が目指すところの共生社会の形成に有効な役割を果たすことを期待している。

#### 学校現場の評価・感想・コメント

- 担当教員から  
生徒が製品作りに取り組む姿勢が変わった。幼児が使うので、品質への気づかみや工夫する姿勢がより強く出てきている。残業したいとの要望もあった。
- 保護者  
ふだんは支援される立場だが、子供たちが社会の役に立っている姿が誇らしく、とてもうれしい。

#### 直接連携・協働していない関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- 高橋北海道知事  
心を込めて作られた積み木で赤ちゃんが遊ぶことによって、北海道が世界に誇る木の文化を、人生の始めに味わえることは、本当に素晴らしいことです。地域をあげた素晴らしい取組であり、教育です。
- 社会教育委員  
養護学校の生徒が身近に感じられるようになった。幼児教育のためにも大変良いことをしていただいた。